

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600269		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム 柏木		
所在地	苫小牧市柏木町5丁目1番20号		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0193600269-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0193600269-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苫小牧市西部の住宅地にあります。2階建て、2ユニットのグループホームです。1F入居者は9名。男性4名・女性5名。平均年齢は現在87歳です。スタッフは10名で、全員女性です。1階で特に力を入れているのは、「車椅子使用者ゼロ」の状態を継続する為、とにかく「歩くこと」に力を入れています。毎朝の掃除は役割を決め、掃除機係り・ごみ出し係りなど、特に男性の方々に頑張ってもらっています。10時から、全員でテレビ体操・廊下を使用しての演歌を聞きながら歩行訓練をしています。天気の良い日は、近所の散歩に出かけ近所の方との交流も積極的に行っています。毎日の食材・日用品の買い物は、スタッフと入居者と二人で、近くのスーパーまで車で出かけます。その際は、2階のスタッフ・入居者も一緒に出かけるので良い交流の機会になっています。苫小牧市で行っている、「いきいきポイント」事業で、ボランティアの方々に週1回は来て頂き、レクリエーション・手芸や将棋・オセロの相手など楽しい時間を過ごさせて頂いています。町内会の皆さんには、行事への参加、毎月グループホームにて音楽会を開いていただく等、日々お世話になり、運営に協力を頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設して3年7ヵ月が経過しています。市や町内会の行事には案内を頂き、職員と利用者は積極的に参加をしています。利用者の五感刺激と地域との繋がりを深める場にもなっています。町内会の方々からは、開設当初よりホームに深い理解と支援を頂いています。調査日の昼食時間に利用者から「この町内の人達は、いろいろな言葉を掛けてくれて温かいよ」との言葉を伺いました。また、新入職員が夜勤の時は、2ヵ月間は先輩職員がサブとして付き二人体制になっています。運営法人の充実したバックアップ体制の下、良好な人間関係が築かれており、職員は向上心を持ってケアサービスに努めている「グループホーム 柏木」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、開設記念日に管理者と職員で決めている。日頃から常に思えるように難しい言葉は使わず、日頃の業務の中でも職員の会話の中に出せるようにしている。「焦らず、ゆっくり・・・」等。玄関・リビングなど目に付くところに掲示してあります。	全職員で策定した基本理念やケア理念を、開設記念日に振り返り実践の確認を行っています。さらにユニットごとに「車椅子使用者ゼロ」「全員参加」をモットーとし、ケアサービスで実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には、定期的に参加している。町内会の方が、ボランティアに来て下さっているので、パイプ役になっていただいている。ウエス・介護用品等の寄贈等の協力も頻回得ている。	町内会の方々からは、利用者に対して常に声掛けがあります。町内会行事（新年会での餅つき大会、盆踊り、文化祭）や、ホームの秋祭りは交流の場となっています。地域のボランティアの方々の訪問も、利用者の楽しみ事になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の他にも、町内会の皆様の紹介で関係者が増えてきている。認知症の方の家族からの相談を受けることが多い民生委員の方からの相談が多い。見学は、いつでも受けるようにしている。行事のときは、特に見学をすすめている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的開催。状況報告を行っている。出席された方々の要望を出来る限り取り入れ、サービスの向上につながるようにしている。特に防災・避難訓練への取り組みでは町内の意見も取り入れるようにしている。	運営推進会議は町内会の多数の参加を得て、ホームの運営に向けて各関係者から意見や情報提供が有ります。メンバーからの情報で、ベット提供者宅に職員が出向いています。子供達との交流の提案も出ています。	家族の参加が固定していますので、全家族に議事録の配布をすることで理解に繋げ、参加しやすい日時設定や、不参加の場合は事前に質問や提案等を収集するなど、メンバー拡大に繋がる取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市の介護保険課担当者、包括支援センター職員に参加いただき、状況を伝えている。日頃は、事故があった場合や地域の方で入居の申し込みがあった場合など相談にのって頂いている。いきいきポイントボランティアでは、紹介を頂いている。	行政担当窓口には法人職員や管理者が訪れ、ホーム運営に向けて情報や意見を頂き、課題解決に生かしています。将棋など各ボランティアの紹介があり、利用者の暮らしが豊かになっています。さらに実地指導や認定調査等で、情報や意見交換があります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時にオリエンテーションの際に、身体拘束を含む、正しい知識を周知している。	年2回、身体拘束・虐待防止に関する委員会を開催しています。さらに「ゼロの手引き」等の資料を活用し、身体拘束をしないケアの在り方を学んでいます。不適切な接遇にならないように、職員間で注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部への研修への参加をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議において、包括支援センターの方から制度について御聞きすることはあるが、利用したケースはなし。今後、職員間での勉強会を検討中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は入居時に、重要事項の説明も含め、利用者・家族と時間をとり行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者およびその家族とは、管理者や職員へ意見を言える状況になっており、意見があった場合は速やかに対応している。	家族には、担当職員から家族へのコメント欄があるホーム便り「柏木さんの家」を2ヵ月ごとに発行し、利用者の日常を伝えています。家族来訪時に傾聴した意見は、内容によっては介護計画に反映しています。遠方にいる家族からの要望で、通院支援をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体に対して個人面談を実施して、意見や要望を聞く機会を設けている。	法人職員は度々来訪し、職員の意見等を傾聴しています。職員は、日常業務や会議、個人面談等で就業環境を含め運営に関して積極的に意見や提案を伝えており、ホームの質の確保に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年1度ラダーを評価を行い職員のレベルを把握している。それにより、手当の支給額やリーダーを決めている。一人ひとりが自覚をもって働けるようにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年1度ラダーを評価を行い職員のレベルを把握している。不足している部分については、個人指導を行っている。研修についても参加できる機会を多く持つよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の研修会などに参加している。行事へも積極的に参加し交流の機会をもつようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な気持ちを察知して、個別対応を心がけ安心感をもってもらうよう関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに入居するにあたり困っていること、不安なことや要望を聞き、受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホームより他のサービスが必要と思われる場合は状況によっては、ケアマネージャーとも話し合い、緊急性も考慮しながら他のサービスを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活では、掃除・洗濯・食後の片付け・調理・買い物など、職員と一緒に参加を促し関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流は、行事や面会時に共に時間を過ごしていただきよう関係を築いている。ペットを連れてきていただくなどの協力をお願いしている場合もあり。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話は気軽にかけられるようにしている。外出を希望される場合は、家族に対応して頂く、状況によりホームで対応する場合もある。	ホームに理解と支援を頂いている町内会の方々とは、馴染みの関係が構築されています。自宅や美容室には、家族が送迎しています。苫小牧港やウトナイ湖など、馴染みの場所に外出行事で訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、日常生活の活動を通じてお互いの関わり・支えあっている。重度の方は職員が関わり、孤立しないように関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、気軽に来て頂けるように声かけをしている。行事へのお誘いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	判断の出来る方は希望や意向を聞き、困難な方は家族に希望や意向を聞き、本人本位に検討をしている。	利用者一人ひとりのさり気ない言葉や心身の状態を記録に残し、職員の共有としています。会話や表情から利用者の思いに応えられるよう、職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	慣れ親しんだ家具、食器類を持ち込んでもらっている。家族や本人から、時間をかけ聞き取りを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、アセスメントシートに職員が記録し現状の把握に努めている。心身状態の変化・表情・行動等の細かい変化に気をつけ把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を聞き職員の関わりの中で把握、家族と話し合っ作成している。	介護計画は、関わりの中や個人記録から利用者や家族が望む暮らし方を把握し、全職員の気付きや提案を反映して作成しています。介護計画に連動した日々の記録を3ヵ月毎の見直し時に生かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や申し送りをを行い情報を共有し実践して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院・送迎等柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方にボランティアをお願いしている。町内会の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にかかりつけ医と以前からの主治医との連携をとっている。	殆どの利用者はホームの協力医療機関を受診し、家族対応が困難な場合は職員が支援しています。利用者の状態によっては家族の同席を促し、情報を共有しています。協力医やかかりつけ医の往診、訪問看護師の来訪もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医との連携と、訪問看護ステーションへ相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報交換に努め、医師からの説明がある場合は、家族の了承を頂き参加させて頂く。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明をおこない、重度化した場合の話し合いは持つようにしている。	法人作成の重度化や看取りに関する指針を共有し、契約時に説明し同意書を頂いています。これまで看取りの経験がないため、職員は対応に不安を感じています。	重篤時には法人のバックアップ体制が得られますが、ホームとして職員のさらなる技術や知識の習得等で、職員の不安感の払拭や家族の安心感に繋がる取り組みに期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に、緊急時の対応の確認をしている。勉強会の予定あり。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は夜間を想定した火災訓練を行っている。防災マニュアルあり。	マニュアルを整備し、年2回、消防署や消防設備業者の指導の下、昼夜想定総合訓練を行っています。町内会の参加は得ていません。一時的避難場所は、2軒の隣家としています。町内会主催の防災訓練に参加し、集中豪雨対策を学んでいます。	停電、断水等を含む自然災害を想定しての実践的訓練や、災害時の町内会の役割分担を明確化し、町内会とのさらなる連携強化の取り組みと、全職員の救急法の取得を期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた対応をしている。トイレの誘導・失禁時の更衣は他者に気づかれないように配慮を行う。	基本理念の一節に「個々を尊重し」とあり、職員はその実践に努めています。職員は、利用者一人ひとりに沿った対応を心掛けています。個人情報も適切に管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	混乱しないように、わかりやすい言葉でゆっくり話し、自己決定できるように支援している。できない方は、表情などのサインを見逃さないようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのつど、気持ちを聞き取り、個別の支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族または職員と本人が買い物へ行き、洋服を選ぶ機会をもてるようにしている。散髪は、家族や職員と外出または訪問理容を頼んでいる。女性の方は外出時・行事はお化粧をしている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体の状態を考慮して一人ひとりができる事、出来ないことを職員が見極めて、準備や片付けを行っている。食事は全員で、食卓を囲みながらしている。	各ユニットは利用者の好みや旬の物を基に献立を作成し、利用者と食事作りを行っています。月～土曜日の毎日、各ユニットの職員と利用者が食材の買い物に出かけています。行事食や出前、外食、外出時のお弁当なども利用者は楽しみにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェック表を使い個別の摂取状況の把握をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に合わせての食後の口腔ケアの声かけ・介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状況に合わせて排泄のパターンを把握を行い、声かけ誘導を行う。本人の羞恥心を配慮して自尊心を傷つけないように配慮している。	職員は、利用者の排泄状況をチェック表で確認しています。利用者の尊厳に配慮しながら声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンの把握、献立の内容を工夫・配慮を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた対応を行っている。	毎日入浴出来る態勢を整えていますが、基本的に午後から週2回以上の入浴支援に努めています。入浴は無理強いせず、利用者の意向や状態に合わせ、シャワー浴や清拭で保清しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、なるべくホールで過ごしたり、散歩に出かけたり、夜間安眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が管理している。薬の内容については、個人ファイルに用法を綴り確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・調理・片付け・掃除など、それぞれに合った役割をってもらう支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物は毎日の日課で行っている。自宅への外出等は家族と行っている。	職員の支援の下、利用者は散歩をしながら町内会の花壇を眺めたり、ホームの食材の買い物等で、日常的に外出しています。利用者全員参加でお弁当持参のピクニックや、ドライブがてらマザー牧場等の行楽地を訪れています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、本人が管理できる程度の額を所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話で知人とやり取りを出来るようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などの工夫をしている。	全体的に広々とした造作になっています。一日に2回室温と湿度を確認し、業務日誌に記録しています。季節感を大事にし、節句等の行事には、それらに因んだ飾り付けをしています。クリスマスツリーが雰囲気を盛り立てています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の方等、ホールや居室において語り合ったり自由に過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたタンスや椅子・箸・茶碗など使い慣れた物を使用している。仏壇を持参されている方もいる。	利用者や家族が持ち込んだ家具や生活用品が配置され、利用者一人ひとりの状態に合わせた居室になっています。動線や温湿度にも配慮があり、居心地の良さが感じられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札や目印をつけわかりやすくしている。トイレ・浴室には目印になるような表示をしている。			